



イルミネーションが佐世保の街を彩る「きらきらフェスティバル」

広報

No.650

させぼ



広報させぼ 編集長
「キューちゃん」

特集

4月1日
新しい佐世保市が誕生

2~5p

今月の主な内容

- 市長年頭のごあいさつ、定例市議会など 6~9p
- 市民の広場 10~11p
- 施設だより、イベント 12~13p
- 歴史散歩、カレンダー、テレホンガイド 22~23p
- 九じろうの取材日記 24p

1月

2005 January

PUBLIC RELATIONS SASEBO



しとやかな動作で襖を開けて入室



季節感のある床の間の掛け軸「開門落葉多」やお花を拝見

茶道教室で伝統文化を学ぶ
昨年8月に開催された「お茶の不思議発見、親子セミナー」を皮切りに、アルカスSASEBOでは、小学4年生から中学生までを

九じろうの取材日記

伝統文化・佐世保
こども茶道教室



菓子器に残るお菓子の形にも美しさを追求



お菓子をいただく前は、次客に向かい「お先に」とあいさつ

対象に茶道教室が催されています。約70人の小・中学生が、裏千家、表千家、鎮信流、宗徳流の4教室に分かれて、お茶の心得や基本的な振る舞い方を学んでいます。
おもてなしの心と感謝の心
11月23日は、裏千家と鎮信流の教室に、それぞれ約15人の生徒が参加しました。襖の開け閉め、床の間とお茶道具の拝見、お茶とお菓子のいただき方などを通して、美しい振る舞い方を学びました。流派により所作の違いはありますが、両教室の生徒たちは、亭主側は「おもてなしの心」、お客側は「感謝の心」で相手に接するとい

う思いやりの心を学び、座るときやお茶碗を置くときに目安とする畳の縁が、一つの「結界(境界線)」の意味を持ち、たいへん重要なものであることも知りました。
お茶室の静寂の中で、最初は緊張気味にお茶道具を扱っていた生徒たちですが、お茶菓子とお抹茶(薄茶)をいただくころには、笑顔で「おいしいね」と言葉交わす余裕も見られました。
江上小学校4年生の市瀬桃子さんと吉良佳子さんは、床の間の掛け軸「開門落葉多」について、「読み方と意味を教えてください」と先生に再度尋ねるなどして、茶道への興味を深めていました。



お客さんは感謝の気持ちでいただきます



お茶を点てる亭主は心を込めておもてなし

編集長から「一言」
昨年は、アテネオリンピックの日本勢の活躍や、佐世保では九州文化学園高校バレーボール部の全国大会3冠達成などに歡喜しましたが、一方では、台風や地震、さまざまな事件に揺れた1年でもありました。ことしは、みんなが「チヨ〜気持ちいい」1年になるといいですね。(K)



3月のお茶会で成果を披露
各流派ごとにお稽古をしている生徒たちの成果は、3月6日に開催される「各教室合同お茶会」の場で披露されることになります。



釜の前で、慎重に柄杓を扱う男の子



おいしい薄茶になるように、隣からアドバイス

広報 させぼ

平成17年1月1日発行

佐世保市役所企画調整部秘書課広報係 TEL 0956-24-1111 FAX 25-2184
〒857-8585(市役所専用)長崎県佐世保市八幡町1-10 http://www.city.sasebo.nagasaki.jp 印刷/サン印刷株式会社



この「広報させぼ」は古紙配合率100%の再生紙と大豆油インクを使用しています。